

『水俣病補償処理委』が初会合

6日から調停作業へ

まず県・市から事情聴取

水俣病補償問題の解決をはかる「第三者機関」(委員・三好重夫、地方制度調査会副会長、笠松茂、東大医学部教授、千原謙、大中学委公益委員)の初会合が、二十六日午後一時から厚生省大臣室で開かれた。

三委員と厚生省から斎藤厚相、山本事務次官、金光瑞穂衛生局長、武蔵公衛部長が同席、まず斎藤厚相が「第三者機関設置にいたるこれまでの経過を説明、各委員に「早急に解決するよう努力してほしい」とあいさつした。ついで同機関を「水俣病補償処理委員会」と呼ぶことにし、厚長に千種委員を互選した。

会合では①必要のさいは現地に「も行き、調査をするのむすかしい問題を処理することになるので、必ず三委員が集まって会合を開くことを決めた。

今後の段取りとしては取りあえず六日に熊本県および水俣市の責任者を東京に招いて詳しい事情を聞き、その後随時当事者双方を東京に呼んで意見を聞くことにしており、一応の事情を聴取したあと、現地視察の段取りとなるものと、委員会としても当事者双方の要請もあり、なるべく早く結論を出すことにしている。

公費補償として全国初のケースではあり、どのような結論となるか注目されるが、千種委員は「水俣病について詳しくは知らない。ともかく当事者双方、県、市によく事情を聞いて、今後の段取りを検討したい」と慎重な態度。三好委員は「水俣病が発生したことが、また水俣病が行って実際に見たことがある。このため水俣病について知識も関心も持っていた。いまは白紙の状態だが、今後両者の言い分をよく聞いて調停に当たりたい」また笠松委員は「水俣病は学界などで聞いていたので関心は持っていた」とそれぞれ話していた。

(東京支社)

水俣病補償処理委員会の初会合 (右から山本次官、千種委員、斎藤厚相、三好委員、笠松委員)

水俣病補償処理委員会の初会合 (右から山本次官、千種委員、斎藤厚相、三好委員、笠松委員)

水俣病補償処理委員会の初会合 (右から山本次官、千種委員、斎藤厚相、三好委員、笠松委員)

